

福岡県下四地区における観光の現状

中 村 彰 夫

はじめに

- I 福岡県の観光立地と現状
- II 北九州市の観光と現状
- III 福岡市の観光と現状
- IV 久留米市の観光と現状
- V 大牟田市の観光と現状
- VI 福岡県下四地区別観光客の動向

はじめに

九州における中枢管理都市福岡市をかかえる福岡県は、国際級の福岡空港・国鉄新幹線・九州縦貫自動車道など交通体系においても、その拠点の位置であり、きわめて重要な役割を果たしている。

また、九州旅行のルートや観光コースにおいても、南九州へ、東九州へ、西九州へ、中九州へと、いずれも福岡県をターミナルとして開けているのである。

一方、福岡県は海陸ともに自然景観にすぐれ、海は玄海国定公園として多くの人々に親しまれている玄海灘と響灘に面した海岸線をはじめ、有明海や周防灘にも面して、それぞれ特色ある海岸線が展開し、また陸においては、耶馬日田英彦山国定公園としての英彦山山地をはじめ、福岡全県面積の半分近くを占める山地地域と、筑後川などの河川、さらに10万ヘクタールを上回る農地など、豊かな自然に恵まれている。

また福岡県は、これらの自然景観とともに、古代から海外との交流の窓口となり、太宰府をはじめ豊かな歴史と培われた伝統の数々があり、文化観光県としての誇りを今に伝えている。

本稿は、このような福岡県における観光レクリエーションの現状について、

北九州市・福岡市・久留米市・大牟田市の四地区に分ち、把握考察したものである。

I 福岡県の観光立地と現状

1 福岡県の観光基盤とその特色

福岡県は、九州における政治・経済・文化・交通の枢要な地位を占め、近代産業の発展とともに躍進を続けている。このめざましい経済の発展は、観光地としてのイメージにおいて、必ずしも好ましいものではないが、福岡県が有する今後の発展可能性の多くを秘めていたことも、見逃すことはできない。

福岡県の観光資源は豊富である。瀬戸内海国立公園、北九州、玄海、耶馬日田英彦山の、国立公園を中心にひろがる豊かな自然は、白砂青松の海岸線とともに、ぶな・しゃくなげの原生林を擁する山岳地帯で、四季を通じて「緑」「花」「紅葉」が見られ、優れた自然景観を呈している。

また、祭り行事などにおいては、我が国を代表するような「博多どんたく港祭」を始め、福岡県夏の三大祭りと呼ばれる、“小倉祇園・戸畑祇園・博多祇園”など、数多くの伝統を誇る祭りがあり、芸どころ博多の名にはじない優れた芸能が保存されている。

福岡県はまた、「漢委奴国王」金印の発掘や、大和朝廷の出先機関としての「大和の遠の朝廷」といわれた太宰府などの史跡に表徴されるように、多彩な歴史と史跡を持っている。古くから中国と交流があつて、香り高い文化の華を咲かせた。縄文、弥生期の貴重な遺跡と、3,000基とも4,000基ともいわれる多くの古墳とその出土品は、そのことをよく物語っている。

このほか博多織、博多人形、久留米絣、陶芸品などの、優れた特産品や豊富な山海の味覚、豊かな人情など、すべてが福岡県観光の魅力となっている。

福岡県の観光地づくりに当っては、自然環境保全の観点に立脚した人間優先の立場から、国立公園・県立公園の自然保護、史跡保全のための歴史公園などの整備を含めた、新らしい観光レクリエーション地域を創り出し、福岡県が有する豊富な観光資源の、有効利用を促進することにある。

2 福岡県の観光の現状

(1) 入込観光客の推移

近年福岡県への観光入込客は昭和46年以降順調に伸びてきたが、48年の石油危機の影響を受け、49年是对前年比7%の落ち込みがあったが、50年の新幹線開通によって、17%の大幅増加をみる事ができた。その後も伸び率は安定し、52年は前年より4%を上回り、約163万人の入込増加となっている。

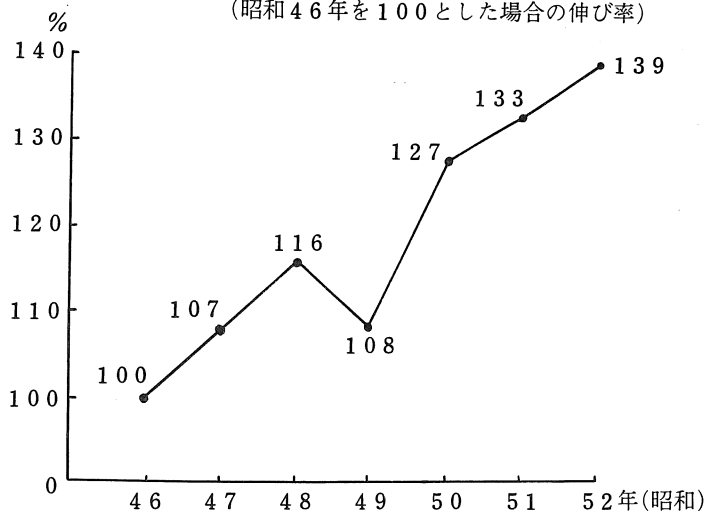
表-1 入込観光客の推移 (単位：千人)

区 分 \ 年 別	46	47	48	49	50	51	52
総 数	28,985	31,228	33,672	31,426	36,876	38,777	40,405
対前年比	—	107	107	93	117	105	104
指 数	100	107	116	108	127	133	139

(注) 指数は46年を基準値(100)とする。
資料：福岡県観光課「福岡県観光客調査結果表」

図1 年別観光客数の推移

(昭和46年を100とした場合の伸び率)



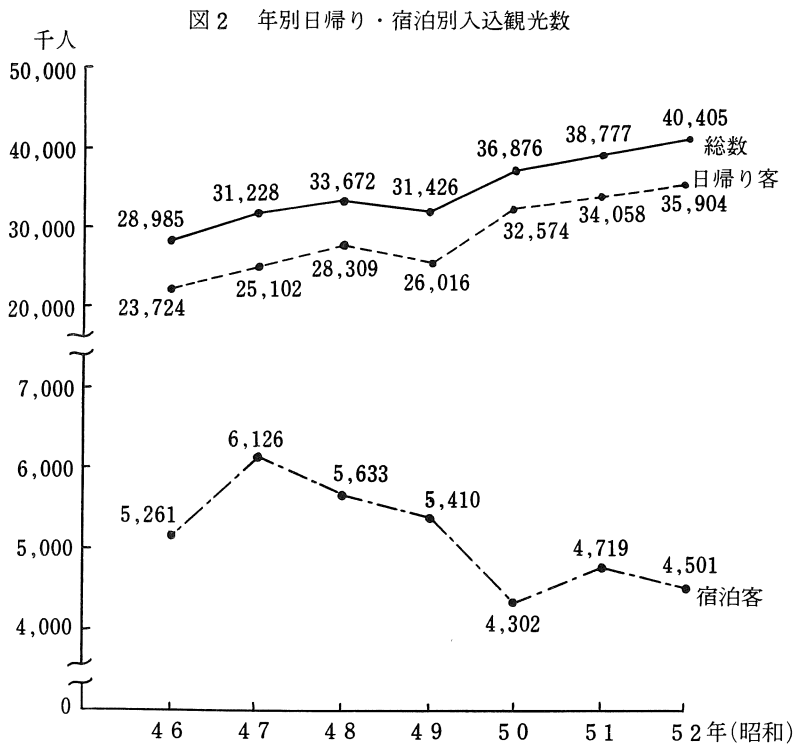
資料：福岡県観光課「福岡県観光客調査結果表」

しかし、ここ数年の観光に対する外的条件は、長引く経済不況の影響もあって、必ずしも良好とはいえないが、余暇時間の増大と国民所得水準の向上などの長期的なプラス要因に加えて、高速自動車道、空路、海路などの近代交通体

系の整備によって、観光客は着実に増加している。

(2) 日帰り宿泊別観光客数の推移

日帰り宿泊別観光客の推移についてみれば、日帰り客は観光客総数に類似した推移を示し、昭和49年においては、前年に比べて8%減少したものの、逐年増加している。これに対して宿泊客は、47年以降減少傾向の推移を示し、日帰り型観光旅行に移行している。52年の日帰り客は、対前年比5%増の35904千人で全体の89%、宿泊客は対前年比5%減の4501千人で、全体の11%にすぎない。



資料：福岡県観光課「福岡県観光客調査結果表」

表-2 日帰り・宿泊別観光客数の推移

(単位：千人)

区 分 \ 年 別	46	47	48	49	50	51	52
日 帰 り 客	23,724	25,102	28,039	26,016	32,574	34,058	35,904
対前年比%	—	105	111	92	125	104	105
指 数	100	105	118	109	137	143	151
構 成 比 %	82	80	83	83	88	88	89
宿 泊 客	5,261	6,126	5,633	5,410	4,302	4,719	4,501
対前年比%	—	116	91	96	79	109	95
指 数	100	116	107	102	81	89	85
構 成 比 %	18	20	17	17	12	12	11

(注) 1. 指数は46年を基準値(100)とする。

2. 構成比(%)は観光客数に対する日帰り及び宿泊別客数の占める割合。

資料：福岡県観光課「福岡県観光客調査結果表」

(3) 観光消費額の推移

観光消費額は、所得の伸びと物価の上昇を反映して増大が著しい。昭和52年における観光消費額は、1000億円を越え、対前年比14%の増加となっている。これを1人当りの消費額換算でみれば、50年以降は2000円を越え、52年では対前年比9%増で2507円となっている。これによっても、観光産業の伸展増大の現状を知ることができる。

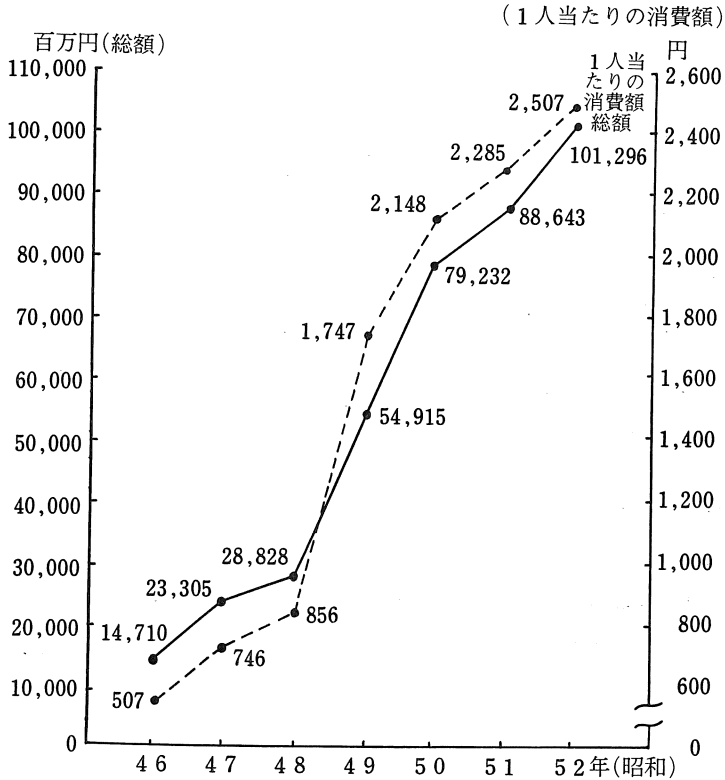
表-3 観光消費額の推移

区 分 \ 年 別	46	47	48	49	50	51	52
消費額百万円	14,710	23,305	28,828	54,915	79,232	88,643	101,296
対前年比%	—	158	123	190	144	111	114
指 数	100	158	195	373	538	602	688
1人当たり消費額円	507	746	856	1,747	2,148	2,285	2,507
対前年比%	—	147	114	204	122	106	109
指 数	100	147	168	344	423	450	494

(注) 指数は46年を基準値(100)とする。

資料：福岡県観光課「福岡県観光客調査結果表」

図3 年別観光消費額の推移



資料：福岡県観光課「福岡県観光客調査結果表」

II 北九州市の観光と現状

1 北九州市の観光立地とその特色

北九州市は、瀬戸内海、周防灘、玄海灘の海にのぞみ、大陸に近く、陸には山陽本線、山陰本線、日豊本線、鹿児島本線のX型軸の交互に位置する立地の優位性によって、早くから八幡製鉄所を中心とした重工業が立地し、我が国四大工業地帯の一つと呼ばれてきた。

このため、北九州市は生産都市のイメージが強い印象を与えているが、観光

づくりにあたっては、市内及び市周辺には豊富な緑の自然地域が保存されているので、国定公園地域をはじめ、自然に恵まれた山地や水辺などを保存整備しながら、観光客やレクリエーションの需要にこたえることである。また、市内の近代産業を誇る会社や工業の産業観光と、古い歴史を象徴する史跡、碑、寺院などの史跡観光の両観光資源を、意識的に融合させることにより、多面的な観光コースを提供することである。

北九州市の観光の特色は、北九州市が九州と本州を結ぶ要衝地であり、古くから中国大陸や朝鮮半島との往来が盛んであったことと、三方は海に面し瀬戸内海国立公園、玄海国定公園の景勝があり、また、市街地を包むような山塊部丘陵地の大半は、北九州国定公園に指定されるなど、緑の自然が保存され保護されている点、さらに北九州には、“めかり神事”“小倉祇園”などの、全国的に有名な伝統ある古い祭り行事や、活気的な新興の祭り行事など、数多く保存されていることである。

さらに生産を誇る都市として新日鉄をはじめ、近代産業の技術を見学できる会社工場も数多くあり、殊に修学旅行地としても好評を得ている。

このように北九州市は、古い歴史の伝承と新しい産業の市街地が生き生きと調和する魅力ある町である。

2 北九州市の観光資源

(1) 瀬戸内海国立公園と関門橋

瀬戸内海国立公園の西端に、めかり公園がある。めかり公園一帯は、平家滅亡の哀史をつづる史跡や伝説とともに、瀬戸内海を東西に展望できる景勝の地である。急潮の早瀬の瀬戸に架けられた関門橋は、中国縦貫道と九州縦貫道を結び、近くには急潮を観覧できる遊歩道、観潮公園、唐人基、めかり神社があり、山頂には平和バゴダがある。

(2) 玄海国定公園と若松北海岸

玄海国定公園は、若松北海岸から西は佐賀県を経て長崎県の福島、鷹島に及ぶ海の公園で、白砂青松と玄武岩の変化にとむ岩礁の眺めが美しい。なかでも

妙見灯台からの風景や千畳敷の奇岩奇勝はすばらしい。響灘緑地は山林、原野湖水、海岸を含む大緑地を形成し、家族づれピクニック最適の地である。ここにはサイクリングターミナルがあり、頓田貯水地周辺でサイクリングが楽しめる。また、玄海遊歩道は、海と工業地帯の眺望が楽しめるハイキングコースである。

(3) 北九州国定公園と北九州自然休養林

緑り豊かな北九州国定公園は、東から風師山、戸の上山、足立山を結ぶ企救自然歩道と、国指定の天然記念物であるカルスト高原平尾台、帆柱連峰を中心とする福智山、尺岳、菅生の滝、七重の滝、河内貯水池などの緑の山々からなる自然の景勝地で、四季を通じて楽しめる。

(4) 産業観光と施設見学

北九州観光の特色としては、産業観光をあげることができる。新日本製鉄八幡製鉄所をはじめ、18事業所の協力を得て行なわれているが、これらの近代産業の施設見学は、特に社会科学習や修学旅行に好評である。また、市立の歴史博物館や美術館、中央卸売市場、総合農事センター、西日本総合展示場などの施設もあり、催物の観覧とあわせて施設見学ができる。

(5) 祭り行事

全国的に知られている“めかりの神事”“小倉祇園”“戸畑祇園”その他数十の祭り行事は、古くから伝承された民俗芸能や都市の発展にともない誕生した祭り行事など、古典的なものからにぎやかなフェスティバルと多彩で、年々盛大となって、市民はもとより多くの観光客をあつめている。

(6) その他

北九州市民の文化観光のシンボルとしての小倉城をはじめ、周辺の景勝の地には国民宿舎とともに公的宿泊、休憩施設がある。

3 北九州市の観光の現状

北九州市観光の現状については、兼用観光が大部分を占めると推察されるが、関係機関や協会などによる正確な調査資料がなく、その現状を確実に把握することができない。したがってここでは、国鉄関係諸駅の乗客数の推移をあげ、

これにより北九州観光の現状は、おおよそ固定化現象にあることを推測したい。

表-4 北九州市国鉄乗客人員 (人)

	昭和50年度		51年度		52年度	
	年間	1日平均	年間	1日平均	年間	1日平均
総数	63,079,793	172,821	65,404,641	178,701	64,142,021	175,732
鹿児島本線9駅	54,696,963	149,855	56,515,053	154,413	55,434,237	151,872
日豊本線5駅	6,170,494	16,906	6,596,687	18,024	6,595,906	18,071
日田彦山線4駅	521,191	1,428	540,115	1,475	510,859	1,400
筑豊本線4駅	1,474,579	4,040	1,530,998	4,183	1,399,627	3,835
香月線1駅	216,567	593	221,788	606	201,392	552

資料：北九州市統計年鑑

表-5 北九州主要駅国鉄乗客人員 (人)

駅名	昭和50年度		51年度		52年度	
	年間	1日平均	年間	1日平均	年間	1日平均
門司	4,052,318	11,102	4,213,697	11,513	4,134,167	11,327
小倉	18,638,091	51,063	19,175,156	52,391	19,036,674	52,155
戸畑	7,165,824	19,632	7,293,796	19,928	7,082,363	19,403
八畑	3,574,606	9,794	3,724,545	10,176	3,640,118	9,973
黒崎	9,237,675	25,309	9,610,934	26,259	9,371,370	25,675
折尾	5,073,925	13,901	5,420,267	14,810	5,453,521	14,941

資料：北九州市統計年鑑

III 福岡市の観光と現状

1 福岡市の観光立地とその特色

福岡市の観光づくりの基本姿勢としては、生活環境としての基盤整備や都市機能を充実させ、地域住民にとって都市全体のすばらしい雰囲気を作成し、市街地をさらに魅力的な人間都市に再生し、拡大される自由時間に対応して、人間と自然や歴史環境との対話の場を確保し、訪ねる人を包みこむ都市づくりである。

福岡市はもともと、自然と歴史と人情を基調とした伝統的なものと、近代化がうまく調和した観光都市として周知されている。すなわち、古くは大陸文化交流の門戸として栄え、現在は名実ともに九州の中枢管理都市として発展している。

福岡市の観光の特色は、福岡が別名博多と呼ばれ観光都市として位置づけられているように、博多人形、博多織、博多祇園山笠、博多どんたくなどなじみ深く、さらに情緒のまち博多、芸どころ博多などのように、心の触れあいと人情味からくる博多情緒は“ふるさとのまち”としてマッチするところである。また、古代「奴国」があったところとされ、日本文化発祥の地にふさわしい数多くの歴史と、自然に恵まれている。

2 福岡市の観光資源

福岡市は自然の景勝地はもとより、文化・歴史・産業など各方面にわたって数多くの観光資源を有している。今ここにそれらを大別してあげると、

(1) 自然的なもの

玄海国定公園——東西110キロメートル文字通りの弓状に連なる白砂青松の海岸景観を誇り、漢委奴国王金印で知られる志賀島をはじめ、各所に大陸文化の交流を物語る遺跡がある。

四大公園——福岡城の外濠の一部を埋立てて造った、西日本随一の水の公園の大濠公園、博多湾に突出した荒津の丘にあって博多湾、海の中道、福岡市街が一望にできる西公園、千代の松原の一部で日蓮上人、亀山上皇の銅像がある東公園、南部の丘陵地帯に動物園を擁する南公園がある。

(2) 文化的なもの

神社——熊襲親征の陣中に崩じた仲哀天皇、及びその妃神功皇后を祀る香椎宮、日本三大八幡の一つである応仁天皇を祀る筥崎宮、その他、櫛田神社など由緒ある20社がある。

仏閣——栄西によって開山された我が国最初の禅寺聖福寺をはじめ、崇福寺、承天寺などの23寺がある。

史跡——博多湾の海岸に延々と築いた元寇の防塁、黒田52万石の居城福岡城

跡、このほか板付遺跡、丸隈山古墳など56か所がある。

(3) 社会的なもの

祭り行事——絢爛豪華な博多祇園山笠をはじめ、博多どんたく、博多おくんち、放生会など著名な17の行事がある。

伝統芸能——博多独楽、博多にわか、松ばやしなど、独特のものがある。

文化——美術館、県文化会館を中心として市民芸術祭、移動芸術祭、その他の催がある。

スポーツ——大相撲福岡場所、国際マラソン大会をはじめ、全国あるいは全九州にわたる数多くのスポーツ行事が、その代表的なものである。

(4) 産業的なもの

市内には博多織、博多人形、筑前しほりなど、伝統的工芸品の工場や公共諸施設がある。

3 福岡市の観光の現状

(1) 入込観光客の推移と動向

福岡市の入込観光客は、年間1千万人を突破している。これは新幹線博多駅の開業が、福岡市観光のうえに一大画期的な飛躍をもたらしたといえる。

表6は昭和49年から52年における入込観光客の推移を表したものであるが、これによれば、入込観光客は昭和50年の新幹線博多開通によって1千万人を突破し、さらに宿泊客は1.9倍、県外客は1.4倍と、それぞれ飛躍的に増大している。

また表7によれば、①福岡市の観光客数は全国の2.5%を占めて、②その伸び率は著しく、③宿泊観光客においても高率の伸びを示している。

なお観光客の宿泊、日帰りについての構成比については、全国は38%と62%であるが、福岡市は18%と82%であり、両者の格差はともに20%で、福岡市の観光においては、日帰りが高率を占めている。新幹線博多開業の50年についてみれば、前年比べて観光客数は10%増加し、宿泊観光客も86%増加の現象をみている。

表-6 福岡市入込観光客の推移

項 目		年				
		49 年	50 年	51 年	52 年	
1. 入込観光客総数		9,426,924 ^人	10,378,290 ^人	10,162,271 ^人	10,349,422 ^人	
日 帰 り ・ 宿 泊	日 帰 り 客	8,449,436	8,558,864	8,338,157	8,525,868	
	宿 泊 客 の 計	977,488	1,819,426	1,824,114	1,823,554	
	宿 泊 客 の 利 用 施 設 内 訳	旅 館 ・ ホ テ ル	766,365	1,634,167	1,656,592	1,651,542
		寮 ・ 保 養 所	137,145	118,229	93,753	92,547
		国民宿舎・国民休暇村	71,291	65,092	72,436	78,596
		ユースホテル	2,687	1,932	1,333	869
		民 宿				
そ の 他						
居 住 地	県 外 客	5,373,347	7,468,132	8,180,518	8,362,787	
	県 内 客	4,053,577	2,910,158	1,981,753	1,986,635	
利 用 交 通 機 関	定期路線交通機関 (国鉄・私鉄・路線バス)	4,833,935	5,916,920	6,713,428	6,776,402	
	貸 切 バ ス	2,200,713	2,222,440	1,913,521	2,006,796	
	自 家 用 車	1,353,572	1,367,901	1,535,322	1,566,224	
	そ の 他	1,038,704	871,029			
2. 消費額合計		千円 33,393,484	千円 53,585,377	千円 58,543,677	千円 67,102,651	
消 費 額 内 訳	宿 泊 費	4,023,340	10,230,495	11,536,342	12,531,992	
	土 産 品 購 入 費	8,708,955	12,254,675	12,749,938	11,967,843	
	地 域 内 交 通 費	8,275,238	11,708,749	12,575,370	14,414,032	
	そ の 他	12,385,949	19,391,457	21,682,020	28,188,783	
利用者1人当り平均消費額		円 3,542	円 5,163	円 5,761	円 6,483	

資料：福岡市観光課

表-7 観光宿泊客の全国・福岡対比

		48 年	51 年	増加率
観光レクリエーション客数	全 国	42,500万人	40,800万人	- 4%
	福岡市	931 "	1,016 "	9%
宿 泊 観 光 客 数	全 国	8,700 "	15,600 "	79%
	福岡市	92 "	182 "	98%

(2) 福岡市の交通機関別入込観光客数

国鉄の観光に占める役割は大きいが、福岡市入込観光客についても、次の表

表一八 交通機関別入込観光客の推移 (単位：人・%)

	国鉄		私鉄		貸切バス		路線バス		乗用車		船舶		航空機		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
48	2,698,002	1,075,998	2,007,758	887,242	1,730,769	23,688	887,706	9,311,163								
	100	29.0	100	11.6	100	21.6	100	9.4	100	18.6	100	0.3	100	9.5	100	100
49	2,752,000	1,158,970	2,200,713	927,965	1,353,572	27,048	1,011,656	9,426,924								
	102	29.2	107.7	12.3	109.6	23.3	104.6	9.8	78.2	14.4	114.2	0.3	113.9	10.7	101.2	100
50	(1,538,895)	1,244,413	2,222,440	933,612	1,367,901	30,767	840,262	10,378,290								
	138.6	36.0	115.6	12.0	110.6	21.4	105.2	9.0	79.0	13.2	129.9	0.3	113.9	8.1	115.5	100
51	(1,506,348)	1,179,947	1,913,521	842,118	1,535,322	25,737	906,514	10,162,271								
	3,759,112	109.6	11.6	95.3	18.8	84.9	8.3	88.7	15.1	108.7	0.3	102.1	8.9	109.1	100	
52	(1,227,887)	1,193,612	2,006,796	890,034	1,566,224	24,907	1,202,929	10,349,422								
	3,464,920	110.9	11.5	99.9	19.4	100.3	8.6	90.5	15.2	105.2	0.2	135.5	11.6	111.2	100	

() 内は新幹線利用入込観光客数
資料：福岡市観光課

によって明確に指摘することができる。

すなわち、利用交通機関の中でも、国鉄利用が常に首位を占めていることに変わりはないが、従来30%弱にとどまっていた国鉄利用者が、50年新幹線の博多開業からは36%を占めている。

なお、福岡市及び市周辺の立寄地の主なるものについては、次の表9のとおりで、太宰府天満宮は平日、土曜日ともに他にぬきんでている。

表-9 福岡市及び市周辺立寄地

順位	平 日		土 曜 日	
	立寄地	割合	立寄地	割合
第1位	太宰府天満宮	33.5%	太宰府天満宮	39.5%
2	大 濠 公 園	17.6	大 濠 公 園	28.6
3	西 公 園	8.8	西 公 園	19.8
4	東 公 園	7.5	福 岡 城 址	16.1
5	筥 崎 宮	6.0	東 公 園	11.2
6	福 岡 城 址	5.2	筥 崎 宮	8.1
7	元 寇 防 塁	4.9	元 寇 防 塁	7.5
8	博多人形、博多織工場	4.0	博多人形、博多織工場	7.3
9	櫛 田 神 社	2.6	志賀島海の中道	5.8
10	志賀島海の中道	2.3	櫛 田 神 社	4.9

資料：福岡市観光課

IV 久留米市の観光と現状

1 久留米市の観光立地とその特色

久留米市は南部に丘陵地帯， 東部に耳納連山を配する筑後平野を流れる九州一の大河筑後川に抱かれた都市で， 筑後地域の産業・経済・文化の中心都市である。国鉄鹿兒島本線， 久大線さらに西鉄大牟田線が走り， 九州縦貫， 九州横断道路もこの久留米の近くで交差するなど， 九州交通のネットワークから一大拠点となっている。

また， 久留米市は旧有馬氏の城下町で人口20万，“水と緑のまち”“つつじと孔雀の都”“ゴムとかすりの街”などに表徴されるように， 市内には篠山城跡，

水天宮、高良大社などの史蹟群、三大ゴム工業を中心とする産業観光群、中央公園、石橋文化センターを中心とする文化スポーツ施設群、柿、ぶどう、植木、花きなどの農業観光資源があり、筑後地区における観光拠点を形成している。

また、市周辺には水郷の柳川、温泉の船小屋と原鶴、植木とフルーツの田主丸、お茶と石灯籠の八女など、独特の物産を持つ観光とレクリエーション地域に恵まれている。

これらの観光立地をふまえて、観光振興にあたっては、市民はもとより広域住民の保健慰楽に資するため、筑後川と耳納山麓を結ぶS字型観光ルートの開発と、市内に散在する文化財とを有機的に結合させた教育文化レクリエーションコースの設定による、大観光レクリエーションルートの確立をはかっている。

2 久留米市の観光資源

(1) 自然

耳納スカイライン——御井から高良大社下まで3キロメートル余りの高良山ドライブウェイに続き、耳納連山尾根を東に13キロメートル、眼下に銀の帯のように見える筑後川を眺め、筑紫、背振、八女の連山を四囲に望み、筑後路特有の田園美に加えて遠く不知火の有明海や雲仙を遙かに望む素晴らしい眺めは、九州の十国峠といわれている。このコースには古刹、キャンプ村、植木や柿、みかんの里もあり、秋の風景もまた素晴らしい。

(2) 史跡、神社仏閣

史跡——筑後21万石有馬氏の居城久留米城跡、南北朝の歴史を語る懐良親王が筑後川の戦に布陣した宮の陣（親王手植えの將軍梅や基所がある）をはじめ、勤王の士高山彦九郎、真木和泉守その他先人の基碑など、数多くが散在している。

神社仏閣——履仲天皇の元年（400年）に創建されたという高良山（312メートル）山中の高良大社、全国水天宮の総本山で建久初年（約780年前）に建立されたという水天宮、臨済宗妙心派の巨刹で鎮西一の禅林道場である梅林寺、鎮西上人開祖の七堂伽藍を残す善導寺、禅宗曹洞の古刹千光寺その他がある。

(3) 文化施設

石橋文化センター——これはブリヂストンタイヤが創立25周年を記念して市に寄贈したもので、近代的な総合文化施設である。園内には美術館、市立図書館、文化ホール、白鳥の池、憩の森などのほか、楽山愛水にふさわしい日本庭園もある。また、和洋庭園に植えられた5万本の花は四季を彩り、名実ともに水と緑の文化都市久留米のシンボルともいえる。

鳥類センター——中央公園内にあり、鳥類100種1,000羽と獣類約30匹が飼育されている。なかでも“孔雀天国”には印度孔雀、直孔雀、白孔雀など5,000羽が美しい羽をひろげて楽しませる。このほか中央公園内には、近代的総合スポーツセンターがあり、陸上競技場、体育館、武道館、野球場、弓道場、テニスコートなどが完備している。

(4) 産業観光

ゴム工場——久留米には月星化成、日本ゴム、ブリヂストンタイヤの三大ゴム工場がある。この三社の生産量は、全国の約7割を占め、生産額は4千億円に及び、4割近くが海外130か国に輸出されている。各社とも工場見学を歓迎してくれる。

(5) 祭り行事

祭り行事には、日本三大火祭りに数えられる大善寺の鬼夜をはじめ、種々の年中行事がある。独特の名物行事つつじ祭りは、久留米つつじをはじめ花木観葉植物の展示即売で、大変なにぎわいである。

3 久留米市の観光の現状

近年における久留米市観光の動向は、昭和50年61万人、51年62万人、52年89万人、53年110万人と、市勢の発展と観光基盤の整備進展にともない、着実に増加しているが、その内容は県内、隣県からの入込みは増加しているものの、遠隔地からの観光客を吸引するまでには至らず、圏域住民の日帰りレクリエーションがその主流となっている。

しかしながら、近年における石橋美術館の入館状況によれば、新幹線の博多乗り入れ以来質的な変化をみせ、関西・関東からの入館者がとみに増加している。また、久留米を起点とする広域観光圏には、南九州、中国地区からの観光

客の入込みが増大している。

一方、市勢の発展にともない、中心市街地の再開発による魅力ある中心業務地域の形成による、観光サービス機能の集積、シティホテルなどの宿泊施設の開業や建設も進み、これと並行して、観光資源としての耳納連山一帯の自然休養村の開発整備も進行している。

また、昨年10月には久留米、柳川、瀬高、船小屋、原鶴温泉が国鉄周遊地に指定されるなど、観光都市としての発展基盤が着実に強化され、久留米市観光は一大飛躍的転換をむかえようとしている。

このような現状をふまえさらに、新幹線の導入に対する地方交通体系の再編整備、都市機能の充実、観光基盤の強化が重要課題となっている。

表-10 久留米市入込観光客の推移

(単位：人)

		50年	51年	52年	53年
ブリヂストンタイヤ		3,793	4,657	3,324	3,082
月 星 化 成		41,422	34,163	27,340	23,836
日 本 ゴ ム		27,218	26,215	24,210	19,220
文化センター	団体	85,973	86,420	69,084	66,144
	一般	203,884	191,693	156,982	190,730
石橋美術館	団体	27,718	40,963	7,091	22,147
	一般	35,429	61,478	19,470	56,470
野菜試験場		4,457	2,740	3,715	3,821
自衛隊学校		28,065	31,248	10,111	2,529
" 部 隊		17,867	17,461	14,056	9,608
スポーツセンター		—	—	323,826	433,860
鳥類センター	団体	27,566	29,732	29,432	30,449
	一般	105,920	94,102	202,944	234,289
有馬記念館		1,104	983	1,383	1,510
大 電		373	230	255	157
松下電器		930	1,442	394	983
日本繊維化工		694	546	873	245
合 計		612,219	624,073	894,492	1,099,087

資料：久留米市観光課

V 大牟田市の観光と現状

1 大牟田市の観光立地とその特色

大牟田市は、福岡県南西端に位する人口20万の鉱工業の都市である。今より約500年前の文明元(1469)年、三池稻荷山において、農夫伝治左衛門によって燃える石が発見されて以来、石炭とその盛衰をともにしてきた町である。

市の東と南は丘陵が横たわり、西と北は平地で、市街は主としてこの地に展開している。地下には第三紀層始新世の、いわゆる三池炭層がある。

三池炭鉱は、明治22(1889)年三井が官有炭田の払下げをうけて以来、巨大な資本と近代的設備技術を投入し、石炭産業の発展に応じて、染料工業、電気化学、亜鉛製錬などの石炭化学コンビナートを形成し、その規模は東洋一といわれるほど発展した。しかし、大牟田市は第2次大戦において、空襲を受け、市街地の大半を焼土と化した。

戦後、大牟田市の鉱工業は、傾斜生産政策による復興過程の中で比較的順調な回復をたどったが、その後エネルギー政策の転換と、石油化学の急速な進出によって、大手事業所は合理化と再編成を余儀なくされ、このため、大牟田市の経済社会は低滞を続けた。その後、鉱工業、商業にも新たな動きがはじまり沈滞から再浮揚へと明るいきざしが見えつつある。

大牟田市における観光は、本来産業観光と呼ばれるものが主力で、一般的な魅力に乏しく、物見遊山の旅行、広域生活圏でのレクリエーション生活という見方からすれば、およそ悲観的ともいえる。したがって、大牟田市の場合は、一般的な観光概念から脱却して、ますます増大するレクリエーション需要に対応するため、公害の排除、清掃の徹底、商店街の照明・色彩を含めた町全体の明るさなど、都市ぐるみの美化浄化を推進し、日常生活圏におけるレクリエーションの場として、文化、体育施設、公園などを中心とするコミュニティセンターの整備充実、娯楽施設、盛り場などの整備促進、夏祭をはじめとする文化・体育に関する市民的行事の盛りあげなど、総合的に推進する必要がある。換言すれば、大牟田市の観光開発は、この総合計画に基づいて市内各種団体、各

組織ならびに市民が一致協力して、市民都市づくりを推進することにはほかならない。

2 大牟田市の観光資源

大牟田市は石炭の町で、史跡名勝に乏しいが、現存するものをあげれば、普光寺と臥竜梅——普光寺は、三池山中腹にあり、うっそうたる樹木におおわれた参道と苔むした石段のある天台宗の古刹である。この寺は約1千百年前の開山で、文化財木造薬師如来坐像などが安置されている。また境内には樹令370年の天然記念物“臥竜梅”や、鎌倉末期の刻銘もある石塔群などがある。

延命公園——延命公園は市中央の三つの山とその谷からなり、自然林と桜樹の緑のオアシスである。園内には動物園、グラウンド、野球場、体育館、プール、青年の家、野外音楽堂などの施設もある。

甘木山公園と甘木山遊歩道——甘木山公園は自然の丘陵を公園化したもので、ここからは雲仙岳、有明海、筑後平野、全市内が一望できる。この中にある遊歩道は、古墳群が点在し、なだらかな草原があり灌木群があり、変化に富み散策を楽しめる。

萩ノ尾、潜塚の古墳——萩ノ尾古墳は6世紀後半の装飾古墳で、装飾は絵画で現在玄室奥壁の石棚下の壁面に認められる。文様は赤（鉄丹）一色で円、舟、靱、圭甲状のものが描かれている。潜塚古墳は、九州における畿内様式を持った古墳の一つで、神人竜虎画像鏡一面、内行花文鏡片、鉄剣、銅鏃、鍬先、鉄鎌、鉄斧などが出土している。このほか、倉永古墳その他がある。

その他——全市民最大の大牟田夏まつりや、古い歴史を持つ三池初市がある。

3 大牟田市の観光の現状

大牟田市における観光は表11のとおりで、大牟田市観光の主力は、本来産業観光とよばれるものである。

市内観光においては、甘木山公園一帯は遊歩道、休憩施設（大牟田ハイッ、東屋など）が整備されているほか、パブリック・コースのゴルフ場も隣接しており、レクリエーション地域を形成している。また、甘木山のほか三池山においても、保全林整備事業が進められており、その波及効果により将来レクリエ

ーション地域として期待される。

大牟田市の観光に限れば、一般的に魅力に乏しいといえるが、しかし、大牟田市周辺に目を移せば、大牟田市は1日ないし2日の観光移動の拠点として、

表-11 大牟田市の主な市内観光

名 称	数	備 考
県立都市公園	1	甘木山公園
主な都市公園	1	延命公園
産 業 観 光	11	工場、三池港
指定文化財 (国指定)	27	早鐘眼鏡橋、萩ノ尾古墳 臥竜梅、石棺、石塔群など 立花氏墓地、地藏幢など
(県指定)	(2)	
(市指定)	(17)	
主なまつり	4	大牟田夏まつり、三池初市、二十日市、桜まつり

表-12 大牟田市観光入込客数 (昭和52年)

	数	備 考
三池海水浴場	30,000人	
萩ノ尾古墳	300	史 跡
眼 鏡 橋	350	重要文化財
甘木山自然公園	146,000	

資料：大牟田市商工課

表-13 大牟田市周辺の主な観光

地名	レジャー施設、行事など
荒尾市	三井グリーンランド、梨狩り
山鹿市	温泉まつり（4月、10月）山鹿灯籠（8月）
玉名市	節頭殿祭（10月）
柳川市	川下り、白秋祭（11月）
瀬高町	清水山、大堤灯廻（7月）大人形祭（7月）
島原市	島原城、温泉まつり、（10月）
その他	雲仙、筑後川温泉、船小屋温泉

重要な位置を占めている。すなわち、大牟田市周辺には、三井グリーンランド、柳川川下り、瀬高清水寺、山鹿・玉名の温泉などがあり、これらの観光地は、大牟田市を中心にすれば1日の行動圏であり、また、島原・雲仙・原鶴温泉を含めれば2日の行動圏の中心となる。

交通には国鉄鹿兒島本線、西鉄大牟田線の鉄道をはじめ、九州縦貫自動車道南関インターチェンジ、国道208号線、209号線などの主要道路網と島原渡海航路があり、鉄道、道路、海の交通が有機的に結合しており、観光客の足の利便が確保されている。

以上にみられるように、大牟田市は、産業観光のほか通過観光として重要な位置を占めている。

VI 福岡県下四地区別観光客の動向

以上、北九州・福岡・久留米・大牟田の四市の観光についてみてきたのであるが、福岡県は、大きく北九州地区・筑豊地区・福岡地区・筑後地区の四地区に区分することができる。

したがって、ここに福岡県下四地区における観光の現状と推移について、表14～19によって考察する。

この表14～19によれば、

表-14 地区別観光客入込数の推移 (人)

地区		年	昭和 49	昭和 50	昭和 51	昭和 52
北九州地区	北九州国定公園		15,367,355	15,733,584	15,890,286	
	筑豊県立公園		252,800	331,250	346,740	
	計		15,620,155	16,064,834	16,237,026	
筑豊地区	英彦山国定公園		1,645,785	1,661,244	1,723,777	1,764,766
	周防灘地区		547,213	705,100	804,853	942,415
	飯塚田川地区		1,226,193	1,475,688	1,880,455	
計		3,419,191	3,842,032	4,409,085		
福岡地区	玄海地区		5,412,471	7,066,622	7,257,579	7,177,823
	福岡地区		12,746,838	13,771,347	13,553,184	13,813,290
	太宰府地区		4,393,991	4,951,272	5,714,837	6,530,900
計		22,553,300	25,789,241	26,525,600	27,522,013	
筑後地区	筑後川県立公園地区		2,837,302	3,062,415	3,304,453	3,986,813
	矢部川県立公園地区		3,150,368	3,487,087	3,670,516	3,962,575
	計		5,987,670	6,549,502	6,974,969	7,949,388
合計			47,580,316	52,245,609	54,146,680	

資料：福岡県観光課「福岡県観光客調査結果表」により作成
(表19まで同資料により作成)

表-15 地区別日帰観光客入込数の推移 (人)

地区		年	昭和 49	昭和 50	昭和 51	昭和 52
北九州地区	北九州国定公園		15,195,151	15,551,134	15,692,522	
	筑豊県立公園		222,400	307,010	324,340	
	計		15,417,551	15,858,144	16,016,861	
筑豊地区	英彦山国定公園		1,378,550	1,361,684	1,394,335	1,445,306
	周防灘地区		531,958	6,670,600	736,553	871,577
	飯塚田川地区		1,111,973	1,288,327	1,706,814	
計		3,022,481	3,320,611	3,837,702		
福岡地区	玄海地区		4,994,569	6,609,558	6,821,967	6,708,322
	福岡地区		11,350,508	11,641,722	11,322,558	11,712,860
	太宰府地区		4,270,857	4,802,548	5,563,663	6,416,980
計		20,615,934	23,053,828	23,708,188	24,838,162	
筑後地区	筑後川県立公園地区		1,992,793	2,234,570	2,394,502	3,047,404
	矢部川県立公園地区		3,001,660	3,316,489	3,310,656	3,703,201
	計		4,994,453	5,551,059	5,705,158	6,750,605
合計			44,050,419	47,783,642	49,267,910	

福岡県下四地区における観光の現状

— 59 —

表-16 地区別宿泊観光客の推移 (人)

地区		年	昭和 49	昭和 50	昭和 51	昭和 52
北九州地区	北九州国定公園		172,204	182,450	197,764	
	筑豊県立公園		30,400	24,240	22,400	
	計		202,604	206,690	220,164	
筑豊地区	英彦山国定公園		267,235	299,560	329,442	319,460
	周防灘地区		15,255	34,500	68,300	70,838
	飯塚田川地区		114,220	187,361	173,641	185,947
	計		396,710	521,421	571,383	576,245
福岡地区	玄海地区		417,902	457,064	435,612	469,501
	福岡地区		1,396,330	2,129,625	2,230,626	2,100,430
	太宰府地区		123,134	148,424	151,174	113,920
	計		1,937,366	2,735,413	2,817,412	2,683,851
筑後地区	筑後川県立公園地区		844,509	827,845	909,951	939,409
	矢部川県立公園地区		148,708	170,598	359,860	259,374
	計		993,217	998,443	1,269,811	1,198,783
合 計			3,529,897	4,461,967	4,878,770	

表-17 地区別観光県外客の推移 (人)

地区		年	昭和 49	昭和 50	昭和 51	昭和 52
北九州地区	北九州国定公園		6,584,560	6,584,650	6,587,463	
	筑豊県立公園		58,250	135,460	53,900	57,000
	計		6,642,810	6,720,110	6,641,363	
筑豊地区	英彦山国定公園		187,990	428,025	485,255	497,096
	周防灘地区		18,520	34,100	43,950	78,004
	飯塚田川地区		86,930	193,849	162,027	
	計		293,440	655,974	691,232	
福岡地区	玄海地区		335,488	600,098	666,811	688,210
	福岡地区		6,259,644	8,451,505	9,081,060	9,073,591
	太宰府地区		2,635,202	2,998,177	2,953,283	3,296,413
	計		9,230,334	12,449,780	12,701,154	13,058,214
筑後地区	筑後川県立公園地区		951,883	1,188,698	1,013,369	1,285,716
	矢部川県立公園地区		443,557	513,370	971,089	959,733
	計		1,395,440	1,702,068	1,984,458	2,245,449
合 計			17,562,024	21,127,932	22,018,207	

表-18 地区別県内観光客の推移 (人)

年		昭和 49	昭和 50	昭和 51	昭和 52
北九州地区	北九州国定公園	8,782,795	9,148,934	9,302,823	
	筑豊県立公園	194,550	195,790	292,840	
	計	8,977,345	9,344,724	9,595,663	
筑豊地区	英彦山国定公園	1,457,795	1,233,219	1,238,522	1,267,670
	周防灘地区	528,693	671,000	760,903	864,411
	飯塚田川地区	1,139,263	1,281,839	1,718,428	1,526,222
	計	3,125,751	3,186,058	3,717,853	3,658,303
福岡地区	玄海地区	5,076,983	6,466,524	6,590,768	6,489,613
	福岡地区	6,487,194	5,319,842	4,472,124	4,739,699
	太宰府地区	1,758,789	1,953,095	2,761,554	3,234,487
	計	13,322,966	13,739,461	13,824,446	14,463,799
筑後地区	筑後川県立公園地区	1,885,419	1,873,717	2,291,084	2,701,097
	矢部川県立公園地区	2,706,811	2,973,717	2,699,427	3,002,842
	計	4,592,230	4,847,434	4,990,511	5,703,939
合 計		30,018,292	31,117,677	32,128,473	

表-19 地区別観光客消費額の推移 (千円)

年		昭和 49	昭和 50	昭和 51	昭和 52
北九州地区	北九州国定公園	11,538,725	11,688,896	11,694,766	
	筑豊県立公園	228,604	457,630	755,129	
	計	11,767,330	12,146,526	12,449,895	
筑豊地区	英彦山国定公園	101,999	325,193	397,646	374,236
	周防灘地区	199,623	327,900	584,141	930,153
	飯塚田川地区	1,007,461	2,337,167	3,355,920	3,259,056
	計	1,309,084	2,989,596	4,337,707	4,563,445
福岡地区	玄海地区	2,093,991	4,033,218	6,008,067	5,974,374
	福岡地区	38,214,439	58,569,784	63,956,165	73,427,928
	太宰府地区	2,691,946	3,691,066	3,882,332	4,533,347
	計	43,000,330	66,294,068	73,846,564	83,935,649
筑後地区	筑後川県立公園地区	6,062,313	4,809,145	4,822,085	6,169,626
	矢部川県立公園地区	4,174,083	4,397,395	4,591,443	5,873,341
	計	10,236,397	9,206,540	9,413,528	12,042,967
合 計		66,313,142	90,636,730	100,047,694	

- ①入込観光客については、いずれの地区も年々増大している。中でも福岡地区は新幹線開通の50年において、飛躍的激増をみせている。なお、52年においては、福岡地区が対前年比3%、筑後地区が13%の増加をみている。
- ②日帰り観光客については、いずれの地区も増大している。中でも福岡地区は新幹線博多開通の50年において、著しく増加している。
- ③宿泊観光客については、いずれの地区も増大している。中でも福岡地区は激増している。
- ④県外観光客については、北九州地区はほぼ固定化現象がみられるが、他地区は増大している。中でも福岡・筑後の両地区は、著しく増大している。
- ⑤県内観光客については、いずれの地区も着実に増大しているが、北九州・筑豊の両地区においてやや固定化現象がみられ、福岡・筑後の両地区は増大著しい。
- ⑥観光客の消費額については、いずれの地区においても増大をみているが、北九州・筑豊の両地区は固定化現象をみせ、福岡・筑後の両地区は増大している。中でも52年においては、筑後地区は対前年比27%の激増で、福岡県地区は13%の増大である。

このように観光客についての六つ動向がみられるのであるが、これらの主誘因として、新幹線の博多開通をあげることができる。

すなわち、新幹線の開通がいかに大きく観光面の浮揚にとって、直接的影響を及ぼしているかが理解できる。

なお、ここに鹿児島本線門司港・大牟田各駅の発送客の昭和50年から52年度に至る推移をあげた資料があるので、これがかかげ福岡県下四地区の観光が現実をみせながら増大していることを指摘して、この稿を終わる。

附記—本稿作製に当って資料の提供とその他多大の便宜を与えて下さった北九州市・福岡市・久留米市・大牟田市の観光課、商工課に深い感謝の意を表します。

表-20 鹿児島本線（門司港～大牟田）各駅の發送客推移 (人)

駅 別	50 年 度	51 年 度	52 年 度
門司鉄道管理局			
鹿児島本線			
門司港	2,939,835	3,019,407	2,915,662
門司	4,052,318	4,213,697	4,133,467
小倉	18,638,091	19,175,156	18,940,603
新中原	1,489,512	1,516,855	1,553,801
戸畑	7,165,824	7,293,795	7,082,362
枝光	2,525,176	2,450,397	2,346,561
八幡	3,574,606	3,724,745	3,640,118
黒崎	9,237,675	9,610,934	9,370,920
折尾	5,073,925	5,420,267	5,419,288
水巻	930,749	994,708	989,389
遠賀川	906,759	961,676	999,390
海老津	1,967,705	2,053,781	2,035,184
赤間	3,393,501	3,635,716	3,701,088
東郷	2,122,403	2,406,806	2,438,278
福岡	2,554,187	2,639,936	2,533,523
古賀	1,731,822	1,860,394	1,915,241
筑前新宮	1,506,141	1,636,117	1,633,649
香椎	4,499,555	4,901,292	4,923,670
箱崎	796,912	849,426	815,747
吉塚	1,129,729	1,137,344	1,051,524
博多	25,438,006	25,797,899	25,037,758
竹下	1,313,596	1,373,549	1,318,231
南福岡	2,382,532	2,675,766	2,654,363
白木原	338,265	344,413	342,143
水城	344,080	438,113	474,956
二日市	1,671,783	1,792,026	1,783,820
原田	296,670	313,681	303,061
基山	875,397	860,238	822,681
田代	280,479	281,165	275,857
鳥栖	2,000,795	1,956,816	1,867,385
肥前旭	258,314	270,452	266,398
久留米	3,088,606	2,897,831	2,645,600
熊本鉄道管理局			
荒木	296,647	299,683	288,775
西牟田	134,069	136,351	135,182
羽犬塚	930,738	945,341	895,163
船小屋	111,344	105,502	97,777
瀬高	701,783	654,126	609,114
南瀬高	97,836	98,580	98,161
渡瀬	125,060	131,486	115,754
銀水	303,081	284,996	271,406
大牟田	1,507,419	1,440,473	1,311,920

資料：「鉄道統計年報」各年度版による。

表-21 鹿児島本線（門司港～大牟田）各駅の到着客推移 (人)

駅 別	年 度		
	50 年 度	51 年 度	52 年 度
門司鉄道管理局			
鹿児島本線			
門 司 港	2,996,628	2,990,584	2,870,836
門 司	4,366,020	4,528,859	4,480,759
小 倉	17,492,304	18,485,979	18,313,148
新 中 原	1,607,358	1,613,076	1,635,753
戸 畑	7,342,085	7,498,615	7,280,242
枝 光	2,677,905	2,688,580	2,464,307
八 幡	3,668,644	3,784,770	3,692,785
黒 崎	9,329,512	9,591,379	9,426,964
折 尾	5,160,928	5,554,894	5,503,115
水 巻	966,681	1,042,155	1,033,410
遠 賀 川	897,587	960,878	995,041
海 老 津	2,046,420	2,072,589	2,026,630
赤 間	3,453,726	3,673,158	3,726,298
東 郷	2,146,960	2,411,253	2,455,059
福 間	2,544,185	2,624,491	2,525,157
古 賀	1,689,170	1,834,304	1,863,822
筑 前 新 宮	1,541,241	1,687,893	1,681,385
香 椎	4,550,997	4,944,082	4,987,334
箱 崎	945,757	962,925	904,299
吉 塚	1,298,388	1,314,449	1,200,058
博 多	24,539,007	25,012,202	24,435,774
竹 下	1,583,329	1,573,559	1,471,833
南 福 岡	2,532,831	2,707,296	2,700,087
白 木 原	323,828	329,836	382,658
水 城	332,714	442,240	461,086
二 日 市	1,629,158	1,716,525	1,692,714
原 田	321,660	331,933	315,882
基 山	890,589	878,428	841,540
田 代	317,213	326,788	316,219
鳥 栖	2,076,648	1,996,322	1,920,845
肥 前 旭	280,393	291,556	284,172
久 留 米	3,089,834	2,892,363	2,639,634
熊本鉄道管理局			
荒 木	299,622	302,148	288,638
西 牟 田	141,890	140,410	142,100
羽 犬 塚	903,991	923,894	873,385
船 小 屋	120,399	112,578	103,829
瀬 高	695,230	658,270	607,147
南 瀬 高	110,318	108,193	103,642
渡 瀬	129,561	137,104	119,267
銀 水	301,544	280,329	265,077
大 牟 田	1,477,230	1,403,988	1,305,364

資料：「鉄道統計年報」各年度版による。